

人口推計結果（20211028 現在）

<人口総数>

- ・第五次総合計画の将来人口推計によると、本市の人口は R2 の 58,738 人をピークに減少に転じ、R27 には 50,370 人になると見込まれています。（図 1）
- ・今回の推計により、町丁目別の人口総数の分布をみると、金剛駅から狭山駅まで鉄道沿線の一部で増加が見られる一方、市南部のニュータウンで減少傾向が見られます。（図 2）

<0～14 歳人口>

- ・今回の推計により、町丁目別の 0～14 歳の分布をみると、市南部のニュータウンで減少傾向がみられます。（図 3）

<通学区域別、7～15 歳人口>

- ・狭山中学校区では、各校とも増加傾向がみられ、東小、北小は R7、狭山中は R12 をピークにその後は減少に転じる見込みです。（図 4）
- ・南中学校区では、南第一小と南第二小は横ばいから減少傾向、南第三小は横ばいとなっており、南中学校は増加傾向がみられるものの R2 をピークにその後は減少に転じる見込みです。（図 5）
- ・第三中学校区では、各校とも減少傾向にあり、R27 には H27 の 2/3 程度となる見込みです。（図 6）

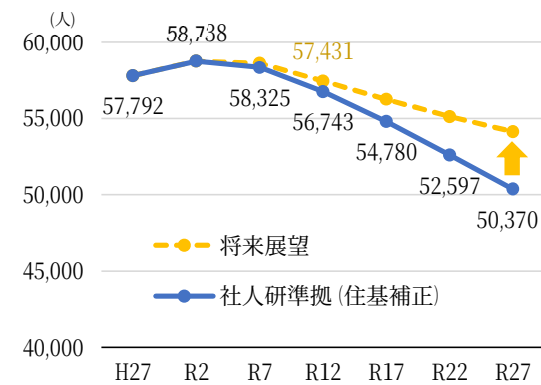


図1 人口総数の推移と見通し（第5次総計）

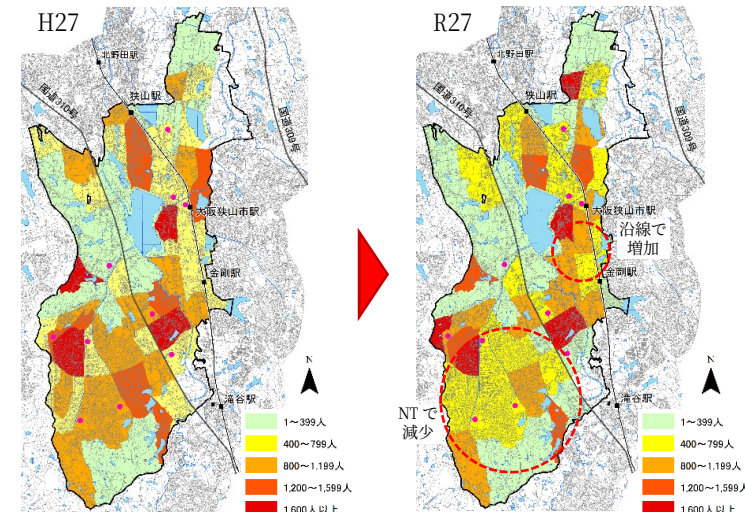


図2 町丁目別、人口総数の推移（H27→R27）

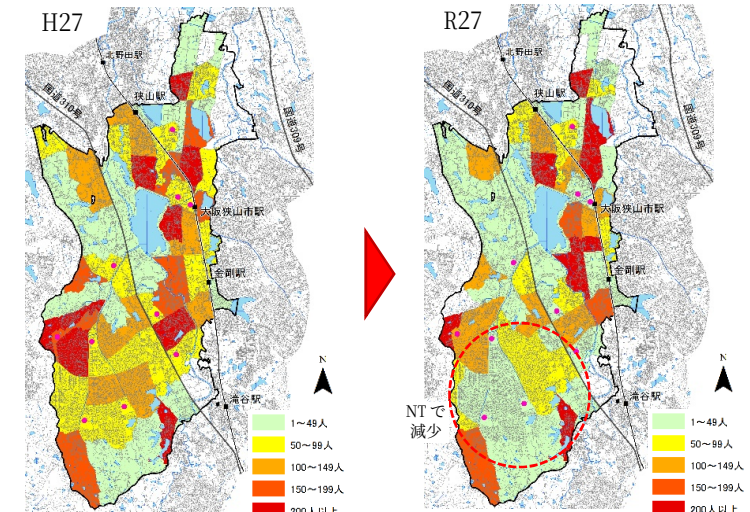


図3 町丁目別、0～14 歳人口の推移（H27→R27）

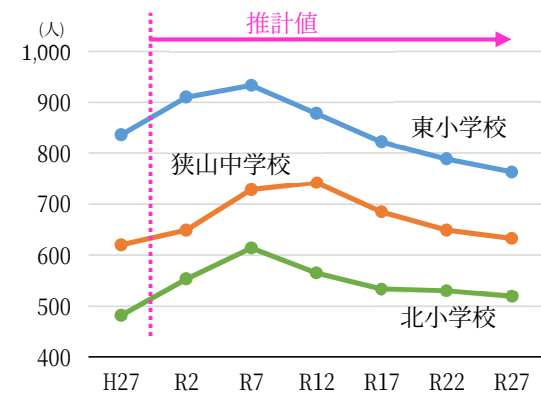


図4 7～15 歳人口の推移（狭山中学校区）

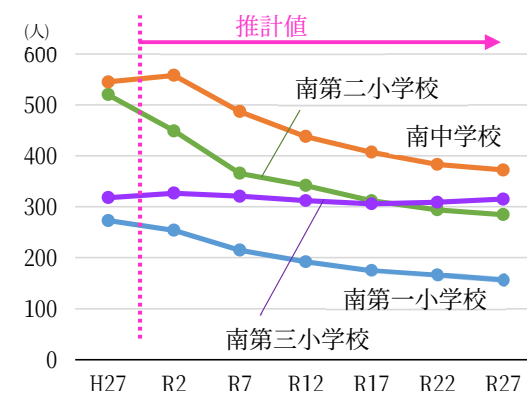


図5 7～15 歳人口の推移（南中学校区）

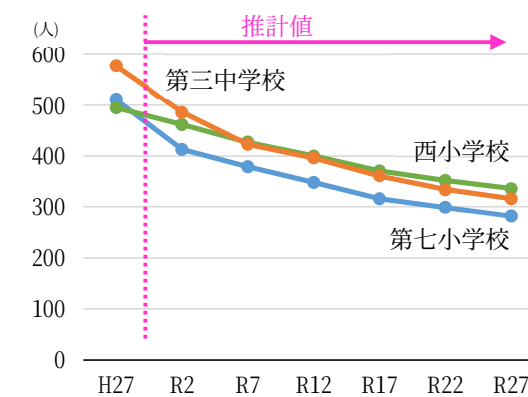


図6 7～15 歳人口の推移（第三中学校区）

推計方法

- ・第五次総合計画と同様にコーホート要因法で推計（基準人口は H27 国勢調査。推計に必要な仮定値のうち、生残率、純移動率、0～4 歳性比は第 5 次総合計画の仮定値を採用、こども女性比のみ町丁目（小地域）ごとに新たに設定）。
- ・5 歳階級人口に対する 1 歳階級人口の割合は直近 3 年間の住民基本台帳人口の平均値を採用、複数校区にまたがる町丁目は適宜 1/2 で按分、第 5 次総合計画に基づく将来展望は考慮しないこととした。
- ・本資料では私学の選択割合は考慮していない。

狭山中学校区の学級数の見込み

- ・東小は R7 に 30 学級、北小も R7 に 19 学級、狭山中は R12 に 21 学級まで増加するものの、最大学級数が必要な期間は数年間の見込み。（図 7～9）

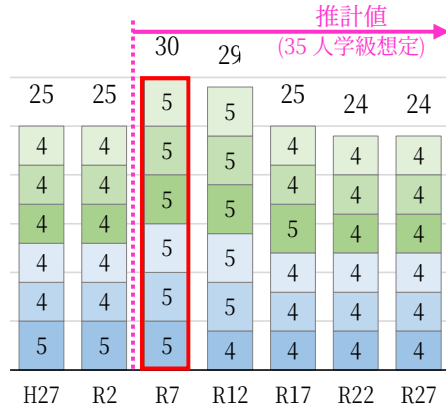


図7 東小学校の必要学級数

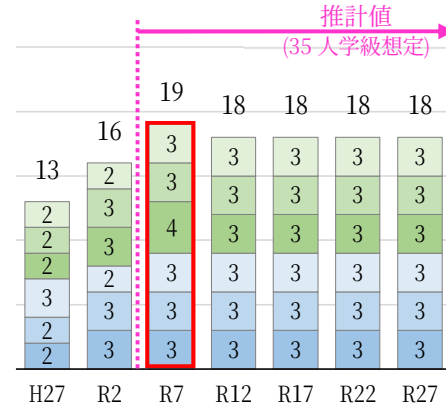


図8 北小学校の必要学級数

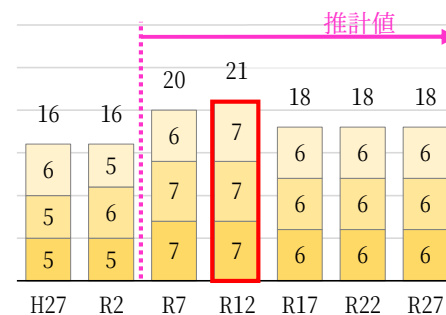


図9 狭山中学校の必要学級数

南中学校区の学級数の見込み

- ・南第一小では、R7 に学級数が増えるものの、R12 以降は全学年で 1 学級に減少、南第二小、南第三小では、R7 以降各学年 2 学級が続く見込み。（図 10～12）
- ・南中はおおむね横ばいの見込み。（図 13）

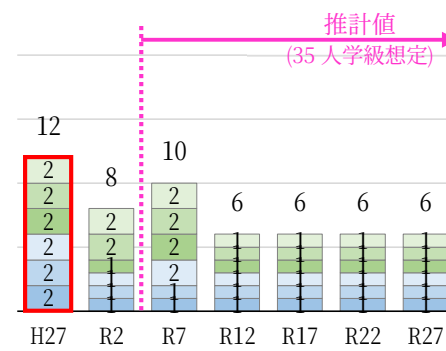


図10 南第一小学校の必要学級数

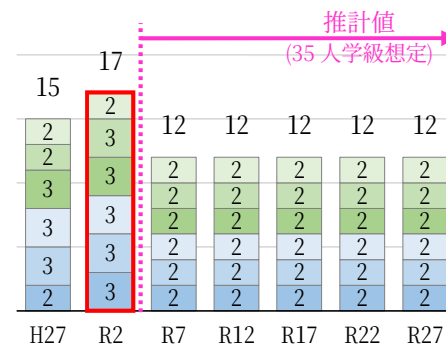


図11 南第二小学校の必要学級数

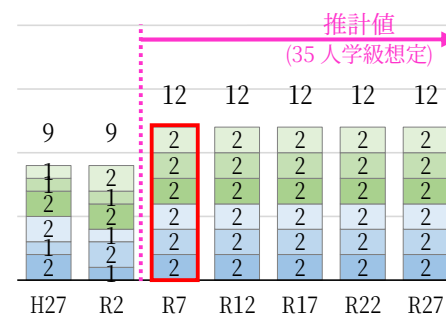


図12 南第三小学校の必要学級数

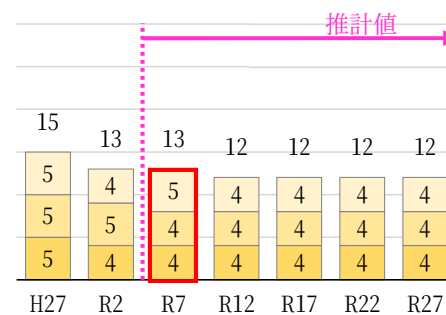


図13 南中学校の必要学級数

第三中学校区の学級数の見込み

- ・西小は R7 以降も 2 学級の見込み。第七小学校は R7 に 17 学級まで増加するものの、最大学級数が必要な期間は数年間の見込み。（図 14、15）
- ・第三中は減少傾向が続き、R22 以降は各学年 3 学級となる見込み。（図 16）

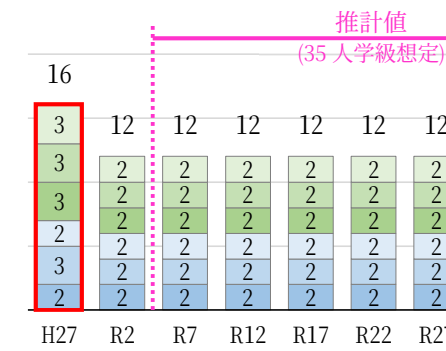


図14 西小学校の必要学級数

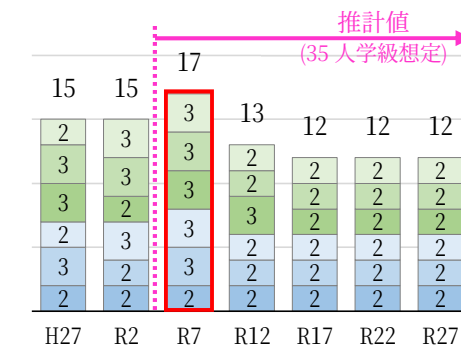


図15 第七小学校の必要学級数

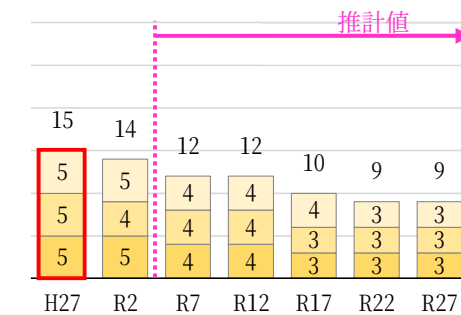


図16 第三中学校の必要学級数

凡例（共通）	
6年(12歳)	H27、R2 は実績値 [40 人学級]
5年(11歳)	
4年(10歳)	
3年(9歳)	
2年(8歳)	R7 以降は推計値
1年(7歳)	
小学校	
3年(15歳)	
2年(14歳)	
1年(13歳)	
中学校	

